

ロシア為替週報

2021年8月30日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(8月21日~8月27日)

USD/RUB: 73.570~74.480

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、じり高先行から、小幅反落、週引けを前に再び上昇し、週を振り返って、(対ドルで)小幅に水準を切り上げた。金融市場全般の関心は、26日からのカンザスシティ連銀経済シンポジウム、とりわけ27日の米連銀パウエル議長講演に集まっていた。その分、ルーブルに対する関心は低かったと言えよう。週前半のルーブル堅調の背景に、並行した原油価格反発が寄与した可能性は十分に考えられた。もっとも、原油反発の要因については、世界景気(需要)回復期待の高まりとか、リスク回避姿勢の後退などという解説が漠然と聞かれたが、重箱の隅をつつくような話ばかりで、ぴんとくるものはなかった。また、原油価格が高止まりを続けたにもかかわらず、その後ルーブルが一旦下押しした経緯は、原油動向がルーブル相場に大して影響していなかった可能性を示唆した。25日以降のルーブル下押しの要因としては、それこそ重箱の隅をつつくようだが、25日、デュッセルドルフ高等地方裁判所が下した、EUガス指令を(適用除外なしに)ノルドストリーム2に適用するとの独燃料規制当局(BNA)判断を支持する判決がひとつ。同パイプラインの稼働率引き下げを強いる結果になるとの読みが嫌気された可能性が考えられた。またモスクワ時間同日夜発表されたロシアの週次CPIが、前週比+0.1%と5週間ぶりにプラスに転じたことも、追加利上げ観測、ルーブル建ロシア国債(OFZ)下落(利回りは上昇)という経路でルーブル売り要因になった可能性が考えられた。肝腎のパウエル議長の講演(後述)だが、事前の予想と比べて特段の意外感はないように感じられたが、その後ドルが売られ、原油、株などが上昇したことから、予想よりも「鳩派的」な内容と解釈された。その結果、ルーブルも、この局面、対ドルで明確に水準を切り上げた。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/25	16:00	鉱工業生産(前年比)	7月	+6.8%	+8.0%	+10.2%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(8月28日~9月3日)

USD/RUB: 73.15~73.95

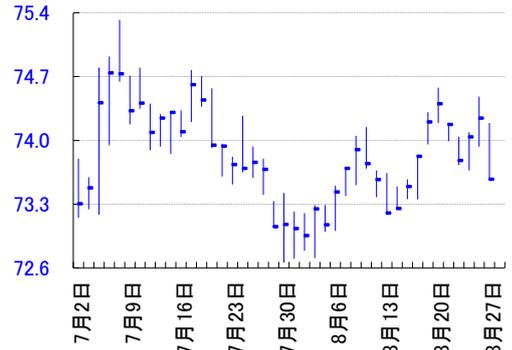
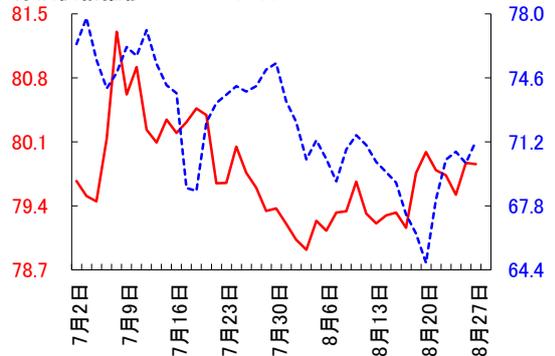
向こう1週間のロシア・ルーブル相場は、方向感を欠いた膠着を予想。上述の通り、この間、金融市場はパウエル議長講演に注目し、「パウエル講演待ち」を続けてきたが、目先は、それが「米8月雇用統計(3日)待ち」に変わるだけの可能性を見込む。同講演に向けて、市場の関心は、米連銀による金融緩和(量的緩和)縮小(=テーパリング)のタイミングに集まっていたように思われた。具体的には、「年内のテーパリング開始の示唆の有無」に注目していたはず。その点、パウエル議長は、「年内のテーパリング開始が適切になる可能性もある」と述べており、その意味では満額回答とも言える発言だったはず。しかし、その後のドル売りを「織り込み済み(注)」「噂で買って事実で売る」と受け止めるのならまだしも、続く「テーパリングは直接には利上げ開始の前触れとはならない」との発言に求めたのは、正直、解せない。利上げ開始のタイミングに関しては、今般、必ずしも議論の対象になっていなかった印象。予期せぬ発言に対して、単純に「意外だった」と言うのならまだ良い。そこに予想(コンセンサス)が形成されていたとは思えなかったものに対して、「予想よりも」鳩派的だったことがドル売りを誘ったなどと解説するのは、値動きを見て理由を探す典型的な後講釈以外のなにもものでもないように感じられた。「パウエル待ち」が「雇用統計待ち」に変わるだけの展開を想定するのは、コロナやアフガニスタンなど、どれだけ考えても先が読めないイベントが続くせいもあり、どうやら市場全般が、真面目に考えることを放棄してしまったかのような印象を受けるからだ。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

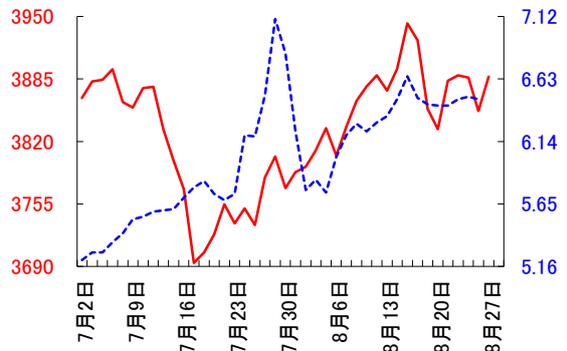
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/31	16:00	失業率	7月	4.8%	4.8%	
	16:00	小売売上高(前年比)	7月	+5.0%	+10.9%	
	16:00	実質賃金(前年比)	7月	+2.5%	+3.3%	
9/3-9/8		国民福祉基金(USD)	8月			188.1bn

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/RUBの推移(日足/ロンドン 7:00~17:00)

株ルーブル/バスケット推移(ロシア中銀公示)
原油価格推移(ブレント直物)

株式/金利相場の推移(MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		6.50%
成長率(GDP/前年比)	Q2	+10.3%
失業率	6月	4.8%
消費者物価(前年比)	7月	+6.5%
小売売上高(前年比)	6月	+10.9%
鉱工業生産(前年比)	7月	+6.8%
貿易収支(USD)	6月	+18.3bn

(注) 前日(26日)、カンザスシティ連銀総裁、セントルイス連銀総裁、ダラス連銀総裁の3人が、口を揃えて「年内のテーパリング開始が妥当」との情報発信をしていた

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

ロシア為替週報

2021年8月30日 | みずほ銀行欧州資金部

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。